

# 広げよう文化の祭典

## 岩日タイムズ

発行者  
岩瀬日本大学  
高等学校  
ソーシャルメディア部  
河田 怜子

### 新型コロナの影響広がる 青柳正規さんオンライン取材会

10月11日、東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会、文化・教育委員長である青柳正規さんへの取材会がZOOMを用いて行われた。全国の高校の新聞部員が参加し、インタビューと交流

会を行った。

また、今回の取材会がオンラインでの開催になったことについての考えも話していた。その中で、新型コロナウイルスによるメリツトもあるのではない



取材に答えてくれた青柳さん

か、という話があった。確かに今回のコロナ禍は世界中に良くも悪くも大きな影響を与えただろう。

私が考える新型コロナウィルスによってもたらされたプラスの影響は、感染症対策への意識が高まったことがあげられる。それは今年のインフルエンザの感染者数が、昨年に比べ450万人以上少ないことを見れば想像することができる。これはコロナを恐れて多くの人がマスク、手洗い、うがい、消毒に努めた成果だろう。

### 編集後記

交流会では、青柳さんの「新聞は自分だけではなく、読み手にも新しい世界を」という言葉が印象に残っている。取材を通して初めて知ったことを新聞にまとめ、第三者に読んでもらうことで、その人も新しい世界を届けられるという喜びは大きなものになるだろう。(河田)

## 下妻の奇祭

### タバンカ祭

名が起こったという。

オンライン取材会の後、私の地元でPRできるところは何かを考えたときに真っ先に「タバンカ祭」別名「松明祭」が出てきた。このお祭りは日本の奇祭神事だ。

この御神火で火を点けた松明を一束ずつ両手に持った所役2名が、振り回しながらかわる。それを4名の豊(1豊の4分の1)、1名の鍋ぶた所役が交互に火の粉を浴びながら追い掛けたり、逆に追われて逃げ回ったりする。時として参詣の人が追われたりもする。これが終わり、豊、



鍋ぶた所役は炎を上げて燃え盛る御神火を囲み、バタンバタンという音を響かせて叩きつけ、消火に努める様を演ずる。松明が燃えつき、祭りが終わるまでの約一時間は、社伝の八幡太鼓の音が鳴り響き、勇壮さをひき立てる。(河田)

大宝寺別当坊の賢了院が出火した際に、豊と鍋ぶたを使って火を消し止めたという故事を戯曲化したのに始まる。以来、600年にわたりに行なわれてきた伝統の祭りである。拝殿前に備えられた2本の大松明(麦わら製)に点火し、勢いよく燃え上がる火を囲んで豊や鍋ぶたを力一杯石畳に叩きつける。この時に発する、バタンバタンという音からタバンカの



所役の火の粉を浴びると禍を免れるという  
(下妻市公式ホームページより抜粋)